

科学技術関係研究会議録のてびき

——『国立国会図書館所蔵 科学技術関係
欧文会議録目録』の刊行にあたって——

田中 隆子 古谷 雄一 山口 義一
小山 香津 菅原 薫子 三上蒼生子

内 容

はじめに

I 会議録とは何か

- 1 会議の考察
- 2 会議の刊行物
- 3 図書館と会議刊行物

II 当館所蔵の会議録

III 本目録について

- 1 収録範囲
 - (1) 資料の時間的並びに形態上の範囲
 - (2) 主題分類上、科学技術の範囲をどこまでとしたか

2 編集技術上の問題点

- (1) 目録の構成
- (2) 分類とコントロール記号
- (3) 記入の形式

IV 今後にそなえて

- 1 本目録の追加分の維持について——
現状と収集
- 2 和書の会議録

V 類書、書誌

- 1 会議の目録
- 2 会議録の目録

はじめに

会議録の目録を作ろうと話し合ってから、でき上るまでに（昭和47年2月29日発行）約3年半の年月を要した。改めて「作業ノート」をひろげてみるとノートの初めに「43. 10. 26. 作成」と書かれている。しかし、このノートを初めて書きおろした人は、もう2年も前に他部へ異動している。最終段階でこれに従事していた人々は次のとおりである。古谷、山口、小山、菅原、三上、田中の6名であるが、このメンバーに到るまでに、相当の人事異動のあったこと（初めからこれに携わっていたものは、田中以外は一名もいない）は、このような目録作製の上で、非常に困る点である。今でき上った目録を手にして、長かった3年半をふり返ってみると、いろいろの困難を克服して、まがりなりにも実務に役立つ目録が完成したことを喜ぶとともに、今後この目録の補遺をどのように維持してゆくかの、新たな課題をになったことを考えなければならない（本目録以降の追加分についてIV-1を参照）。

「目録を作ろう」という発想の裏側には、「必要にせまられて」という実感が

ある。近年における研究会議の会議録の利用は、いちじるしい（I-1参照）。日常のレファレンス業務の中にも利用者の会議録を求める要求が増加しているのは当然である。しかし、この会議録は、個人（または機関）の著述になる普通の図書とは違って、当館の公開目録では、なかなか見出すことができない。即ち、はっきりした著者名も書名もないし、利用者の側でも、明確な会議名や、主催団体名を記憶しているとは限らない。目録法上の如何に正確な目録がつけられているとしても、利用者にとっては（利用者でなくても職員でも）、なかなか検索できないのが現状である。それで、種々な角度から検索のできる目録を作ろうというのが、実務担当者の発想である。レファレンス担当が組織的にこれに取り組んだのは前記の43年10月からであるが、それ以前に個人的にレファレンスのツールとして、会議録のカードが集められていた。これをもとにして、世界でもあまり類を見ないこの難作業に取り組むことができたことについて、個人的にカード集めをしておられた方の先見の明に改めて敬意を表したい。すなわち、このカードが火種となって、今日の目録ができ上がったのである。

目録作製にあたって、いくつかの困難な問題にぶつかった。その主なるものは

① 収録をどのようにするか

② 整理部作製の目録カードをどのように手入れして利用するか

などである。これらについては、後の章でくわしく記述するが、今後、種々な目録編さんの際の参考になれば幸である。

以下はこの作業に直接従事した人々が、それぞれ分担して執筆したものであるが、全体の構想については数度の打合せを行なっているので、共同研究ということになるであろう。内容は、編さん上の問題点を中心に、会議（会議録）の意義、会議（会議録）の書誌、目録刊行後の措置など、会議録についての手引となるものである。

なお、本目録に収録した約120タイトルのロシア語文献については、非常勤職員石田喜与司氏の大きな援助によるものであることを付記しておく。（田中）

I 会議録とはなにか

1. 会議の考察

科学技術情報の流通問題は国内的に、あるいは国際的に論議されている。伝統的な伝達手段は、大学、あるいは研究所の研究者の論文が大学紀要、学会誌、研究所報告といった一次情報の媒体に発表され、同分野の仲間に報知される方法である。

今日 Oral Communication として重要視されている伝達手段に「会議」がある。

これは何かを決めるものでなく講演が主体で、その後質疑応答があり、一方通行ではない。

昭和43年にわが国の物理学・化学関係、昭和45年に生物・農学関係の研究者の情報源に関する科学技術庁の調査が行なわれた。また同様の調査が英国においても行なわれているのでその一部を示す<表1>。

これらの表から、oral な伝達手段は、科学者の情報源として重要な役割もっているということがわかる。歴史的に、このような oral 伝達手段のパターンを考察するには、ヨーロッパにおいては17世紀にさかのぼる必要がある。

最近の会議は、学協会のような組織が主催する年会などから、原子力平和利用会議のように、世界中から数千人の参加者が出席する国際会議にまでおよんでいる。そして、これらの会議から、一般的に知られている講演予稿集 (Preprints) や会議録 (Proceedings) が刊行される。

2. 会議の刊行物

(1) 会議開始前に刊行される資料

会議のプログラム、プレプリントなどがこれに相当するであろう。一番重要なものは、プレプリントであって、それは Full Text, 抄録, などの形をとり、会議に関係する人のみに配布され、図書館などでは入手しがたい。勿論文献として永久的価値をもたせることは意図していないようである。さらに、この Preprints は他の文献に引用されることがあり、図書館員は、これについて請求をうけることがある。

(2) 会議の間で刊行される資料

開会、閉会の辞、出席者のリスト、決議文のテキストなどで、実際に出席した人以外は得ることはむずかしい。

(3) 会議の後で刊行される資料

これは、一般的に会議録あるいは Proceedings として知られ、提出された Papers を含んでいて、時折は、議事録、討論、決議文などを含むこともある。

(i) 図書形態で刊行されるもの

図書形態で刊行されるものは、普通、会議の主催団体から出版されるのが普通のものである。

(ii) 雑誌形態で刊行されるもの。

(a) 雑誌の一部をさいて、刊行されるもの。

(b) 雑誌の特集号、あるいはサプリメントの形で刊行されるもの。

(c) 雑誌のような刊行形式で、刊行されるもの。

に分けられるのではなからうか。

3. 図書館と会議刊行物

我々がユーザーの要求によって、会議録を調査した結果見あたらない場合がしばしばある。この理由として

- (1) 買わない
- (2) 発行されていない
- (3) 発行がおくれている
- (4) 発注する場所が不明

(1)については、ここでは問題外であるが、(2),(3),(4)については、問題点になる。しかし、前述したように、プレプリントの他の文献への引用は妨げられていないから、当然図書館への要求はあるはずである。会議刊行物に関する古典的研究によれば、アメリカにおける4つの会議で、383のPapersが発表され、そのうち48.5%は刊行されていないことが報告されている。

日本化学会の例をとるならば、1969年の日本化学会第22年会の講演数は2,558件であり、これに化学会主催の討論会を加えると4,834件に達する。1969年発行の機関誌の論文数は1,770件である。故に36%が機関誌に掲載され、他の64%はどこかに消えている。即ちプレプリントが著者なり、なんらかの方法で得られない場合には、半分の論文が紛失することになる。

発行のおくれは、普通には、会議の開催後1年間ぐらいで、全部刊行されるようである。しかし、それ以上おくれることもある。

いずれにしても、多くの二次資料には抄録されているので利用は増すであろう。

また図書館員にとって、目録作業が大きな問題点になる。即ち、会議録の検索手段としては、会議名、主催団体、開催年月日一開催地などが考えられる。しかし、会議録のlayoutについては、完全に満足してないものがある。このlayoutについて規定した規格がある。これはBritish Standard 4446; 1969であり、会議、会議録などの用語の定義もしている。

参考文献

- Unesco Bulletin for Libraries 16 [3] 113~126 (1962)
Ibid. 16 [4] 166~176 (1962)
学 術 月 報 16 [4] 38~48 (1963)
" 16 [7] 38~48 (1963)
British Standard 4446; 1969
化学情報 日本化学会 1971. p. 24.
Science and Technology; an introduction to the literature, Clive Bingley,
London. 1969. P. 151~162.

(山口)

<表1> 情報源の利用状況に関するアンケート

1. わが国における調査例

(a) 個々の仕事に必要な情報を得るために最も重要な情報源

(b) 仕事に関連する知識をつねに新しく保つために最も重要な情報源

(注) 数字は全回答者数に対する百分率である

情報源	分野			物理学会員						化学会員					
	目的			(a)			(b)			(a)			(b)		
	業務			研 究	研 究 以 外	全 体	研 究	研 究 以 外	全 体	研 究	研 究 以 外	全 体	研 究	研 究 以 外	全 体
刊行された原著論文	96	81	92	82	67	78	87	59	76	73	54	66			
実験観測等報告類	37	38	37	27	36	29	44	52	47	29	36	31			
テクニカルレポート類	28	20	27	21	25	22	19	22	20	16	22	18			
レター(速報)	56	28	50	60	34	54	31	17	26	46	30	40			
特許関係一次資料	11	13	11	8	14	9	43	34	40	31	26	29			
組織的の非公開一次資料	14	23	16	10	15	11	26	43	32	14	22	17			
抄録(誌)	32	26	31	39	33	38	51	37	46	51	41	47			
索引(誌)	10	9	10	9	13	10	18	11	15	16	11	14			
原著論文付記参考文献	69	49	65	32	26	31	50	27	41	24	15	21			
レビュー記事(誌)	39	39	39	65	57	63	34	27	31	60	51	57			
単行図書	37	53	41	45	49	46	35	39	37	40	37	38			
ハンドブック, データ集	20	29	22	11	22	14	29	38	33	9	16	11			
特許二次資料	2	3	2	2	2	2	10	12	10	9	13	10			
組織内の非公開二次資料	4	6	4	3	7	4	7	18	11	5	11	8			
ニュース記事	4	20	8	26	39	29	9	26	15	37	50	42			
学術協会等による会合	58	53	57	69	55	66	34	29	32	53	43	49			
個人的又は非公式会合	49	39	47	47	37	44	26	27	26	31	26	29			
組織内情報担当者	8	18	11	9	16	11	18	30	22	16	27	20			
その他	2	3	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1			

2. イギリスにおける調査例

英国科学政策諮問委員会 1963~1964年

(1) 最も有用な情報源

情報源	専門分野		物理学		
	情報の種類	特 定 情 報	カレント アウア ネス	特 定 情 報	カレント アウア ネス
特 許		1	1	0	0
政府レポート (価格未定)		0	0	1	1
産業レポート (")		0	1	1	1
抄 録		6	5	3	4
個 人 接 触		4	3	5	4
会 議		1	5	2	6
展 望		3	7	2	6
出版される原論文		6	4	6	4
図書館/情報部門		4	3	5	3
ハンドブック		3	0	3	0
そ の 他		0	0	0	0

表中に用いられている数字
は下記のパーセンテージの
範囲を示す。

- 0 = 1 ~ 5%
- 1 = 6 ~ 15%
- 2 = 16 ~ 25%
- 3 = 26 ~ 35%
- 4 = 36 ~ 45%
- 5 = 46 ~ 55%
- 6 = 56 ~ 65%
- 7 = 66 ~ 75%
- 8 = 76 ~ 85%
- 9 = 86%以上

3. 化学者、物理学者、生物学者の文献検索法（英国）

(J. Martyn : Literature Searching by Research Scientist, Aslib Research
Dep. 1964)

文 献 検 索 法	百 分 率		
	化 学 者	物理学者	生物学者
同じ分野の他の研究者との会話による	52	69	72
同じ分野の他の研究者との文通による	18	32	95
関連論文中の引用文献の追跡	83	79	84
雑誌（抄録誌をふくむ）の主題別または著者 別索引を利用	71	47	61
新しい論文を読んで進歩を追いかける	79	75	78
自分のつくった索引の利用	52	38	58

文 献 検 索 法	百 分 率		
	化 学 者	物 理 学 者	生 物 学 者
図書館の索引カードの利用	8	9	12
図書係または情報調査係に聞く	12	8	3
その主題についての文献目録の利用	18	9	23
所属機関から国際的に配布される報告書を参考にする	22	7	8
標準の教科書や単行本の利用	58	42	41
諸情報源にもとづいて、他の研究者から非公開または未公開の資料を入手しようとつとめる	17	41	21

科学技術研究者等の情報利用の実態に関する基礎調査，科学技術調査，科学技術庁計画局 [60] 114 (1968)

II. 当館所蔵の会議録

当館では、さまざまな形態、内容の資料を所蔵しているわけであるが、ここでは科学技術およびその関連分野に関する欧文の会議録について、当館の資料取扱いの形態別に例示する。資料を、便宜上、(1)図書、(2)雑誌、(3)技術リポート（これは形態上の区別ではないが）、(4)小冊子にわけて考えよう。

(1) 図 書

ASME Design Engineering Conference, *New York, 1967.*

A product design through the engineering analysis of its end use; an approach and a case history. New York [1967] 51 p. illus. 26 cm. Sponsored by the Design Engineering Division. (DH358-1)

図書には、雑誌も同じことであるが、discussionなどを付したいいわゆる会議録と純然たる preprint (予稿集) とがある。

(2) 雑 誌

Journal of heat transfer (Transactions of the ASME) vol. 91, Ser. C. No. 3, Aug., 1969. (Z53-H312)

Free convective flow patterns in cylindrical annuli. By R. E. Powe and others.

(3) 技術リポート

(資料形態としては、小冊子、マイクロフィッシュ、マイクロフィルム等、内容的には学協会、P B・AD、航空宇宙、原子力各リポートなど)

ASME paper No. 68-WA/HT-2.

Free convective flow patterns in cylindrical annuli. By R. E. Powe and others.

(2), (3)とも,

Winter Annual Meeting, New York, N. Y. Dec. 1-5, 1968 of the American Society of Mechanical Engineers.

の会議録であるが、(3)は純然たるプレプリント、(2)はそれを基にディスカッションが付せられた、いわゆる会議録である。

また、書誌(ここでは Nuclear Science Abstracts)のある会議録の例として、次のようなものがある。

Conf-650919-2 Automated analysis for the characterization of heavy water moderator. R. H. Gaddy. 1965. 25 cm. (NSA v. 19, 1965, Abstract no. 19-40406)

(4) 小冊子

Proceedings of the Regional Seminar on Energy Resources and Electric Power Development. 441 p. (E/CN.11/598)

小冊子の一例として、国連資料をあげたが、その他の外国官庁刊行物にも、会議録が入っている。たとえば

National Bureau of Standards. Modern trends in activation analysis, proceedings of 1968 International Conference held at National Bureau of Standards, Gaithersburg, Md., Oct. 7-11, 1968.

の様なものである。ただし、この資料は、nondeposit のものなので当館では、マイクロプリントで買っている。

さて、上にあげた例は、どのような基準によったかということであるが、勿論当館所蔵資料のうちの会議録を全てあげるわけにはいかないの、資料を当館における次の基準によって限定した。

1. 「和漢書・洋書扱いの区分に関する件」により、洋書扱いのものに限った。和漢書扱いの会議録についてはIVで取扱うこと、及びわれわれの編集した本目録は「欧文」であることがその理由である。

2. 「図書館資料の取扱区分及び登録基準」「書庫内において別排架する逐次刊行物として取り扱う資料の範囲について」により、第一種甲図書(通常の単行書、継続ものを含む)及び乙図書(雑誌、マイクロ資料、小冊子など、ただし新聞は除く)とした。

3. 「本館において使用する目録規則、分類表及び件名標目表に関する件」により、当館が欧文資料について使用する分類表(DCと、国立国会図書館分類表

後者は以下、NDL分類と略称)にもとづき、科学技術及びその関連分野とする。
(古谷)

III 本目録について

1. 収録範囲

本目録の収録範囲として、次のようなことが考えられよう。

(1) 資料の時間的並びに形態上の範囲。

(i) 昭和何年から何年までか。

(ii) 図書扱いのものか。それ以外(定期刊行物、技術リポート等)のものか。

(iii) 和書か洋書か。

(iv) どういうものを会議録としたか。

(2) 主題分類上、科学技術の範囲をどこまでとしたか。

これらを逐次説明してゆくが、最初に本目録の収録範囲を全般的にのべておく。

「本目録の収録範囲は、当館が昭和23年(1948年)から昭和44年(1969年)までの22年間に受け入れた図書扱い洋書のうち、科学技術関係の研究会議録(conference proceedings)である。」

(1) 資料の時間的並びに形態上の範囲。

(i) 収録期間。 期間を昭和23年から44年までにしたのは、旧帝国図書館が国立国会図書館になって以来、可能なかぎり最近のものまで収録するということで、またこの期間は利用要求が最も多いからでもある。なお、将来の問題として45年以降も考えられる。

(ii) 図書扱いかどうか。

図書扱いのものに限った。これはVにおいてのべるように、図書扱いのもの以外については、その検索方法もあるし、また、それらを全部入れるということは、事実上不可能である。そしてなによりも図書扱いのものの検索は、技術的になかなか困難であるのが、その理由である。では当館でいう図書扱いとは、何かというと、刊行回数から言えば、逐次刊行物でないものを言う。ここで当館でいう逐次刊行物(Z扱い)とは「書庫内において別排架する逐次刊行物として取り扱う資料の範囲について」により、資料の内容が特定図書の追録であるもの及び要覧の類を除き、雑誌(紀要類を含む)新聞の類、その他の発行回数が日刊、週刊、旬刊、半月刊、月刊、隔月刊、季刊及びこれに準ずるものと規定している。したがって、半年刊以上のもは当館では図書扱いとしている。当館では、内容(形式)が優先するので、たとえ刊行頻度が半年刊以上であっても、雑誌、紀要の類であればZ扱いとしている。不定期刊についても同様である。また、資料形

態からいえば、「図書館資料の整理区分に関する件」により国連資料、新聞雑誌類、科学技術レポートなどを図書扱い以外としている。勿論前述したとおり、図書扱い以外のもの（国連資料、新聞雑誌類、科学技術レポート等）にも科学技術関係の会議録が入っているわけであるが、これらの検索手段については V. 会議の書誌類 の項でのべる。ただここで注意しなければならないのは、国連資料における整理区分の変更である。たとえば、

International Conference on the Peaceful Uses of Atomic Energy, *Geneva*, 1955. Proceedings. New York, United Nations, 1955-58. 17 v. (541.2-161p)

の様な会議録は、従来図書扱いであったため、本目録に収録したが、1964年からの整理分については、整理区分を変更し、国連資料は全て A/CONF.15/15 の如き Document no. で整理することになった。従って1964年以降に受入られた国連資料の会議録は、本目録には収録されていないので、これについては『国立国会図書館所蔵国際連盟・国際連合刊行資料目録』を利用することになる。

(iii) 和書か洋書か。 当面、利用の多い洋書に限った。ここでいう洋書とは「和漢書、洋書扱いの区分に関する件」による。和書についても、将来考慮の要があろう。これについては、IV. 今後にそなえて の項でのべる。

(iv) どういうものを会議録としたか。 本目録において、科学技術関係会議録とは、始めに定義したごとく、研究会議録である。したがって、次の例の様な議会における科学技術関係の議事録は含まれない。

U. S. President, 1945- (*Truman*) Synthetic rubber; recommendations of the President. [Washington, U. S. Govt. Print. Off.] 1950. "Transmitted to the Congress together with a report on maintenance of the synthetic rubber industry in the United States and disposal of Government-owned synthetic rubber facilities from the assistant to the President." (678-Up93s)

次に通常会議録という場合、ある主題についてのプレプリントが配られ、それに基づいて、意見発表、質疑討論をし、会議としての結論をだすという形式の議事録を考えるが、我々はここでは会議録という意味を広く解釈し、単に議事録のみでなく、その会議に関連する一切の資料を含むことにした。したがって、たとえばある会議のプレプリントだけであるとか、または記念講演集などの様なものをも収録することにした。また、内容においても、単に技術上の研究会議録のみでなく、次例の如き科学技術政策上の会議録をも収録した。

Organization for Economic Cooperation and Development. *Ministerial Meeting on Science*. Ministers talk about science; a summary and review

of the first Ministerial Meeting on Science, October, 1963. [Paris] 1965.
(506.3-O68m)

以上の様な原則の上で、収集を行なった。まず選書段階（当館では整理済の図書を書庫に排架する前に、参考書誌部職員等が見て、参考図書にするか書庫に入れるかきめる。これを選書と言っている）において目録カード上、及び内容からみて Conference proceedings であるものは全てカードを収集し、後刻それについて更に検討し、収録すべきかどうか決定した。昭和23年までの過去にさかのぼる分については、整理部の書架目録中、科学技術関係のところから、当該カードをタイプにより複製した。

さて、このようにして、無条件に会議録として採用したものは、次のとおりである。

(a) 標目に conference, symposium, congress, colloquium, convention, seminar, workshop, institute, general assembly, round table, clinic, teach-in, summer school (cf. BS. 4446) 開催地、開催年などの記述のあるもの。

(b) 標目は個人名、団体名等であるが、書名中に会議録或いはその一部であることを示す記述のあるもの。

(c) 標目、書名共会議録であるような記述はないが、叢書注記、一般注記などにその旨の記述があるもの。

(d) カード面には、会議録たる記述がないが、内容からみて会議録として扱うべきもの。

以上の様なものについては問題はないが、前述した会議録とは何かという原則から、多少検討を要し、その結果採用、不採用をきめたものは、次のようなものであった。以下、例を示す。

(a) 会議録中の一部を集めて図書としたものは収録する。

Engineers Joint Council.

Selected papers from the nuclear engineering and science congress. 1st-1955. New York, London, Symposium Publications Division, Pergamon Press. (621.48-E57s)

(b) 会議録の抄録は収録する。

Conference on Tube Techniques. 8th, New York City, 1966.

Program and abstracts. Sponsored by IEEE Group on Electron Devices.

[n. p. 1967?]

(ND357-1)

(c) ある会議の目的、内容その他関連する information を記した Information Bulletin は収録する。

United Nations Conference on New Sources of Energy.

United Nations Conference on New Sources of Energy, Italy, 21-23, August, 1961; information bulletin. New York, United Nations, 1960.

(621.4-U58u)

(d) ある規格を制定するための、制定委員会 (Committee) の議事録は、収録しない。

American Society for Testing Materials. *Committee D-2 on Petroleum Products and Lubricants.*

Physical constants of hydrocarbons boiling below 35°F. Philadelphia, 1950. (547.2-A512p)

(e) 会議のプレプリントは、収録する。

Joint Automatic Control Conference.

Preprints of papers. New York, L. Winner. (M131-27)

(f) 既に雑誌等に発表された会議録を、リプリントして、図書としたものは、収録する。

International Council of Scientific Unions.

A description of the International Council of Scientific Unions and of the adhering International Unions. Cambridge, Eng., 1951. "Reprinted from Reports of proceedings of the General Assembly of the International Council of Scientific Union, Vol. V." (506.2-I61d)

(g) 会議録の書誌は、収録しない。

Gregory, Winifred, 1885-

International congresses and conferences 1840-1937; a union list of their publications available in libraries of the United States and Canada. New York, Kraus Reprint Corp., 1967. (UA51-1)

(h) 続きものでそのうちある巻、号は会議録で、他はそうでないものがあるが、これは会議録の部分のみ収録する。

U. S. *National Cancer Institute*. Monograph, no. 1— Washington, U. S. Govt. Print. Off.

no. 2 Proceedings; Symposium on no. 3 Conference on

no. 4 Symposium; phenomena of no. 7 Syverton memorial

symposium no. 9 Symposium; analysis no. 11 Sympo-

sium on organ

(SC461-8)

(2) 主題分類上、科学技術の範囲をどこまでとしたか。

次は、分類上、どこまでを科学技術として収録するかということである。洋書

は昭和43年4月から、和書は44年1月からNDL分類に切りかえられた。それまでは洋書はDC 14版である。本目録の収録期間は、昭和23~44年であるから当然、DCとNDL分類の両方が入っている。今後は和洋共NDL分類が原則であるから、単行書についてはNDL分類一本ということになるが、継続物については、原則として1971年版からNDL分類に切りかえる。そのうち endless のものはカードを更新し、カード面にはNDLとDCとの分類記号を併記し、既にDCで分類した分については、凍結することになった。NDL分類切りかえ以前からの継続物で、将来終期が予測されるものは、DCまたはNDL分類記号のいずれかで継続している。

さて、本目録本文の分類構成は、DCを基本にした分類体系の中にNDL分類記号を組み入れている。その理由は、後述する様に収録範囲を単に分類記号の面からのみでなく、内容面からとらえていること、及び収録資料の大多数がDC分類であることである。その体系表については、2. 編集技術上の問題点の項に詳述する。まず、DCで分類されたもののうちで、科学技術の収録範囲をどこまでとしたかについてのべよう。勿論 DC 500 Pure Science~600 Applied Science が一応科学技術の領域であるが、問題は5門・6門でも、内容的に科学技術の会議録とは認められないもの、及び他の領域にまたがる隣接分野をどうするかということである。たとえば、658 Business Management は、通常の事務管理と科学技術関係の Business Management とがあるが、我々はこれを厳密に区別し、収録は後者に限ったが如きである(分類表参照のこと)。この問題は、NDL分類のものについても、全く同様である。

また、分類上は科学技術に入らないが、内容的にみて、考慮しなければならない隣接領域は、DCでは次の様なものであろう。

情報処理 010, 016, 025, 164, 410

産業一般 311, 338, 385, 355, 387, 388, 606.2, 606.3, 389

建設工学 711, 721

医学・薬学 301.158

その他の工学 771, 778

NDL分類では、次のようなものであろう。

情報処理 DH271, UL41

経営管理 DH358, DH211

地球科学 GJ141, GJ91, H35, G81

衛生工学 AU541, DC961, EG281, EG285

航空工学 DK211

原子力工学 DL211

建設工学 KA351

上記のものについては、科学技術と密接に関連するところであり、内容を充分検討して、これを収録することにした。

また、今後選書で proceedings のカードを収集する場合に、NDL分類M～S（科学技術）以外で、常に留意しなければならない科学技術関連分野について、45年9月12日分類課と協議したところ、次のような個所であった。

[M～S以外で、科学技術と関連ある部門]

A 政治・法律・行政

172 公海及びその上空、大陸棚（国際法）

174 航空法及び宇宙法

354 消防・防災（行政・行政法）

411 経済産業法

451 建設（経済産業法）

463 工業所有権（経済産業法）

471 運輸法

491 通信法

528 安全・衛生（社会法）

561 公衆衛生（社会法）

D 経済・産業

DC911 資源

DD31 国土計画・地域計画

71 都市計画

DH271 データ処理システム（事務管理）

DL 鉱業・エネルギー産業・工業

DM181 農産物

411 畜産業

511 林業・林業経済

611 水産業

E 社会・労働

EG211 医療・公衆衛生

281 公害

EL171 安全・衛生・労働災害（労働条件）

U 学術一般・ジャーナリズム・図書館・書誌

UA 学術一般

UL 31 ドキュメンテーション

311 専門図書館（図書館史・事情）

341 情報センター（図書館史・事情）

641 件名標目（収書・整理）

642 件名標目表

649 シソーラス

Y YP 大型本

YQ 横長本

以上要するに、分類上の収録範囲は、DC 5～6門、NDL分類M～Sを基軸に、それと内容的に関連する分野ということになる。

次に問題になるのは、同じ内容のものでありながら、分類の不統一ということである。たとえば、アメリカの湖沼の水質汚濁防止会議録など、Conference in the Matter of Pollution of Lake Eri……等のようなもので、内容的、時間的なずれから、DCでは 628.16 : Sanitary Engineering であり、NDL分類では、A : 政治、法律、行政報告、行政、EG : 公害（公害対策）、NA : 都市工学（技術的）などに分散されている（現在は、series 物はNA217 都市工学、衛生工学に入れている）。分類の統一は、なかなか困難であり、また内容的にも分類違いが生じて当然のものがあるが、そういうものを別にして、このような例ももれなく収録するため、本目録の分類体系を単純にDC 5～6門、NDL分類M～Sというわけにはいかず、DCを基本にしなが、独自の分類体系を作った理由がある。また分類の相違による取りこぼしを避けるため、今後の選書において、前述したとおり、科学技術との関連分野に常に留意しているわけである。（古谷）

2. 編集技術上の問題点

(1) 目録の構成

本目録の構成を、どのようにするかは、重要な点である。

会議録の書誌として、既刊のものに、次の二種がある。

International congresses and conferences, 1840-1937. New York, Kraus Reprint Corp., 1938. (A) (請求記号 UA51-1)

Yearbook of international congress proceedings. 1960-1967. Brussels, Union of International Associations, 1969. (B) (請求記号 UA1-2)

両方とも国際会議の書誌で、(A)は、米国の図書館で所蔵する資料の総合目録、(B)は、会議録の書誌である。(A)は、会議名のABC順排列で、索引はない。(B)は

会議開催年月日の年代順排列を採用しており、索引として、機関名のABC順、著者・編者のABC順、主題キーワードのABC順排列の三つの索引を付している。ちなみに、後述(V)の書誌のうち、会議の目録は、ほとんどが開催年月日順排列を採用している。これらを参考にして、本目録については、本文を標目のABC順排列と分類別排列の二案があったが、標目(後述Ⅲ-2-(3))には、種々の形式があり、必ずしも会議名ではないので、分類別を採用することにした。この点は、今後の利用状況を考慮にいたした上で、再検討する必要がある。

もし標目のABC順排列を、本文に採用するならば、後に付けた主催団体名、会議名の索引は、すべて本文に一連のABC順排列の中に組み入れて、標目として採用されていないものは、参照とする。従って、索引としては、年月日順、分類(或はキーワード)を付することとなる。

以上のような次第で、本文を分類別排列とし、開催年月日、会議名、開催団体名、書名(叢書名、レポート番号を含む)の四種類の索引を付した。

なお、本文の収録標目数は、3,035件であるが、年次会議のように、一標目に数件の会議録を含むものがあるので、会議録の収録件数は約3,900件である。

(2) 分類とコントロール記号

以上のような経過で、本文は分類別排列としたが、どのような分類体系にするかについての一番の問題点は、旧分類、新分類の二通りの取扱いであった。全く二本建で、それぞれの分類記号順の排列という案も考えられたが、利用者にとって、あまりに不親切であろうという観点から、これについては、前記(Ⅲ-1-(2))に述べたとおりの取扱いをした。すなわち、旧分類のDCをもとに、部分的に新分類のNDL分類記号を加味して、32項目を選定し、大体DCに準じた排列の独自の分類表を作った(表2参照)。

次に、慎重な措置を要した点を、若干例示する。公害に関するものは、NDL分類では、A(政治)、EG(社会学)、M(科学技術一般)、NA(建設工学)などに、それぞれの文献の内容により分散している。これらを、DCの628(Sanitary Engineering)に一括し、本分類表の項目とした。また、NDL分類の化学分野(PA)は、化学一般、理論化学、分析化学、無機化学、有機化学、化学工業などに大別し、各々の収録件数と見あわせながら、最終的に化学一般、理論化学、無機化学・有機化学・分析化学に分類し、PA151-185(化学工学、高压化学関係)、PA235-244(無機化学工業関係)、PA361-551(石油化学工業等)表2参照は、一括して化学工業とした。なお、NDL分類記号と本分類表との対照一覧を付してあるが、これは、本目録に収録した文献のみを対象にして、実務上作ったものであるから、一般的な対照表ではない。

<表2> 「分類表」とDC分類記号の対照一覧

分 類 表	DC分類記号		収録 件数	コント ロール 記号
	該当記号	備 考		
情報処理 Information processing	010-164, 410		21	A 0
産業一般 Industries	311-388		12	B 0
経営管理 Business management	607-608, 651-658	657 (book keeping, ac- counts) 658. 8(selling) は 収録しない	50	B a
自然科学一般 Pure science	501-509		76	C 0
数 学 Mathematics	510-519		145	D 0
天 文 学 Astronomy	520-526		64	E 0
物 理 学 Physics	530-538		230	F 0
原子物理学 Nuclear physics	539-539.7, 541.2		166	F a
化学一般 Chemistry in general	540		15	G 0
理論化学 Theoretical chemistry	541 (541.2 は除 く)	541.2 (atomic theory) はF aへ	105	G a
無機化学・ Inorganic chemistry, 有機化学・ Organic chemistry, 分析化学 Analytical chemistry	542-547		98	G b
鉱物化学・ Chemical mineralogy. 結晶学 Crystallography	548-549		21	G c
地球科学 Earth sciences	550-563		120	H 0
生物科学 Biological sciences	572-578		199	J 0
植 物 学 Botany	580-589		56	J a
動 物 学 Zoology	590-599		29	J b
医学・薬学 Medical sciences, Pharmaceutical sciences	610-619		244	K 0
応用力学・ Applied mechanics and 工業材料 materials	620.1-620.11		96	L 0
各種材料 Specific materials	620.12-620.19		98	L a
管理工学 Industrial engineering	620.2-620.78		17	M 0

(次頁に続く)

分 類 表	D C分類記号		収録 件数	コン ロー ル 記 号
	該当記号	備 考		
機械工学 Mechanical engineering	621-621.9, 681		88	M a
電気工学 Electrical engineering	621.3		157	M b
建設工学 Structural engineering	624-627, 690-721		104	M c
衛生工学 Sanitary engineering	628		71	M d
航空工学 Aeronautical engineering	629.1		178	M e
原子力工学 Nuclear engineering	621.48		77	M f
その他の工 学 Other branches of engineer- ing	622-623, 629, 771, 778, 315		36	M g
農 林 水 産 Agricultural sciences	630-639		90	N 0
生活科学 Domestic science	640-649		15	P 0
化学工業 Chemical technology, Chemical industry	660-668		160	R 0
金属・冶金 Metals, Metallurgy	669		138	R a
製造工業 Other manufactures	671-678		59	R b
計			3,035	

<表3> NDL分類記号と「分類表」の該当項目との対照一覧

N D L 分 類		「分類表」の 該 当 項 目	コン ロー ル 記 号
(政 治)			
AU 541	アメリカ合衆国の厚生	衛生工学	M d
(経済・産業)			
DC 961	水	衛生工学	M d
DH 211	経営管理	経営管理	B a
DH 271	事務管理	情報処理	A 0
DH 358	設計管理・技術管理	経営管理	B a
DK 211	航空運送	航空工学	M e
DL 211	原子力	原子力工学	M f

(次頁に続く)

N D L 分類		「分類表」の 該当項目	コントロ ール記号
(社 会 学)			
EG 257 EG 281, 285	栄養 公害	医学・薬学 衛生工学	K 0 M d
(歴史・地理)			
G 81 G J 91, 141	地理学・人文地理学 太平洋諸島, 極地	地球科学 地球科学	H 0 H 0
(科学技術一般)			
M 15-86 M 93 M 121 M 131, 141, 191 M 151, 154 M 211-265 M 271, 361 M 331	科学技術一般 防災科学一般(公害を含む) サイバネティックス・情報理論 制御工学, 人間工学, 測定・測定器一般 データ処理, 電子計算機システム 工業基礎学 管理工学, 標準化・規格 用水・廃水	自然科学一般 衛生工学 情報処理 管理工学 情報処理 応用力学・工業 材料 管理工学 衛生工学	C 0 M d A 0 M 0 A 0 L 0 M 0 M d
(数 学)			
MA	数学	数学	D 0
(宇宙科学)			
MB	宇宙科学	天文学	E 0
(物 理 学)			
MC 1-191 MC 211-271	物理学 原子物理学	物理学 原子物理学	F 0 F a
(地 球 科 学)			
ME 27-411 ME 511-695 ME 423-485	地球科学 気象, 海洋, 地質, 地史, 古生物, 自然地誌 鉱物	地球科学 地球科学 鉱物化学・結晶 学	H 0 H 0 G c
(建 設 工 学)			
NA	建設工学(ただし下記を除く)	建設工学	M c

(次頁に続く)

D C L 分類		「分類表」の 該当項目	コントロ ール記号
NA 211-224	都市工学・衛生工学	衛生工学	M d
(機械工学)			
NB	機械工学	機械工学	M a
(運輸工学)			
NC 21, 31	運輸工学	建設工学	M c
NC 23, 51, 64	自動車, 船舶	その他の工学	M g
NC 111-161	航空機・ロケット	航空工学	M e
(電気工学)			
ND	電気工学	電気工学	M b
(原子力工学)			
NG	原子力工学	原子力工学	M f
(化学・化学工業)			
PA 1-21	化学・化学工業	化学一般	G 0
PA 51-61	理論化学・物理化学	理論化学	G a
PA 121-124	分析化学	無機化学・有機 化学・分析化学	G b
PA 222-225	無機化学・無機化学工業		
PA 317-325	有機化学・有機化学工業		
PA 151-185	化学工業, 高圧化学・高圧化学工業, 電気化学・電気化学工業	化学工業	R 0
PA 235-244	セラミックス		
PA 361-551	石油化学, 醗酵・微生物工学, 高分子 化学・高分子化学工業, 紙・パルプ工 学, 木材工学, 皮革工学, 染料・顔料 ・塗料, 糖・澱粉, 油脂類		
(繊維工学)			
PB	繊維工学	化学工業	R 0
(食品工学)			
PC	食品工学	化学工業	R 0
(金属工学・鉱山工学)			
PD 23-57	金属工学	金属・冶金	R a

(次頁に続く)

N D L 分類		「分類表」の 該当項目	コントロ ール記号
PD 111-194	鉄 鋼	金属・冶金	R a
PD 81-91	鉱山工学	その他の工学	M g
(その他の工学)			
PS	その他の工学	その他の工学	M g
(生 物 学)			
RA 21-191	生物学	生物科学	J 0
RA 211-347	植 物	植物学	J a
RA 411-571	動 物	動物学	J b
RA 611-	菌類・微生物	生物科学	J 0
(農林水産学)			
RB	農林水産学	農林水産	N 0
(医 学)			
SC	医学	医学・薬学	K 0
(薬 学)			
SD	薬学	医学・薬学	K 0
(図書館・情報センター)			
UL 41	ドキュメンテーション	情報処理	A 0
UL 521	図書館建築	建設工学	M c

分類表中のコントロール記号は、分類記号ではなく、索引から本文を検索する手段として、案出したものである。本文に一連の番号をつける方法、32の分類項目を体系的に排列せず、項目のABC順に排列する方法なども考えられるが、いずれも作業上の難点、利用上の難点などを考慮して、順序を示すことのできる文字と、数字の組合せを考えたものである。したがって、コントロール記号のA、Bなどは、分類記号ではなく、単に順序を表わすものであるが、同一分野の項目には、同一文字を使用し、その細分として0（ゼロ）a、b...等を使用してある。

(3) 記入の形式

本文の記入形式は、原則として、整理部で作られた公開目録カードに従うこ

ととした。しかし、これだけでは利用できないケースが、しばしば起って、これらをどのように処理するかが、問題点となった。索引の方は、会議名、団体名など、公開目録の標目として採用されているものは、その形式に従ったが、標目に採用されていないものの処理に、若干の基準が必要となった。以下、問題点とその処理のしかたを述べる。

(i) 本文

本文で最も問題となったのは open entry の場合である。このケースは、大きくわけて、定期的で開催される会議録を open entry にしたもの(例1)、open entry のうちのいくつかが会議録であるもの(例2)の二つになる。

例1

M0009 Instrument Society of America.

Proceedings of the annual conference. Pittsburgh. v. in. 28
cm. ((12;1957, 19;1964-22;1967)) (M191-2)

(注) (()) の中に当館所蔵分を記入した。

例2

K0229 U. S. National Cancer Institute.

Monograph, no. 1- Washington, U. S. Govt. Print. Off. v.
illus. 26 cm.

No. 2. Proceedings: Symposium on some problems of normal
and abnormal differentiation and development. Roscoe, June 15
through 17, 1959. 187 p.

No. 3. Conference on experimental clinical cancer chemotherapy,
Washington, D. C., November 11 and 12, 1959. 305 p.

.....

(SC461-8)

(注) 該当する no. のみを取り出して、基本記入の後に付記した。

例1, 2とも、各々の会議録について、会議名、団体名などすべて索引に収録した。なお、上記の(例1)のケースで、ある回期のみが、単行書扱いで処理されているものについては、でき得る限り整理部に申入れ訂正して貰ったが、何件かの未訂正のものは、そのまま並記した。

例3

Mc050 Fédération internationale de la précontrainte.

Congress of the Fédération internationale de la précontrainte.

[London] v. 25 cm. ((1;1953-2;1955, 4;1962)) (693.5-F283c)

Mc051 Fédération internationale de la précontrainte, 3d, Congress, Berlin,
1958.

Discussion. Organizing secretary, P. Misch; editor, Ralph P. Andrew. [London, Cement and Concrete Association, 1959] 209 p. illus. 25 cm. (693.5-F293d)

(ii) 索引

a 開催年月索引

同一の開催年月を区別する為に、開催地を付した。これは大ていの会議のリストでは、本文の検索手段として、採用しているものである。すなわち、会議の名称や主催団体名は、不明確であったり、また標目の取り方で変わることもあり得るが、年月は、きわめて明確な検索手段となり得るからである。識別の為の地名は、カード上に記載されていない場合が多く、ほとんど現物の図書から採録した。しかし、必ずしも、開催地名が書かれているとは限らず、可能な限り調査したが、地名以外のものを代用したケースもある。すなわち、

1965 8 Australian National Univ.

1966 1 Norway.

のように大学名、国名、などを付記し、全く不明のものは、この索引に収録しなかった。

地名の取扱い上、次の点を考慮した。

① 一般的に英語で知られているものは、英語形を使用する。初めは、すべて原語名で統一することを考えたが、国際会議の開催地の場合、なかなか原語名を見出すことが困難なので、このような処理をした。

例 München → Munich

Wien → Vienna

Moskva → Moscow

② あまり、有名でない地名には、できる限り国名を付した。ただし、米国の場合は州名。

例 Chalk River (Canada)

Daytin, Ohio.

b 会議名索引

会議名索引にあたって、最も考慮した点は、次のとおりである。

(b-1) 同一の会議名が、二とおりで表示されている場合の調整。

一方の方から参照カードを挿入して、統一をとった。

例 b-1

ASME Winter Annual Meeting.

See Winter Annual Meeting of the ASME.

(b-2) 会議名の中に含まれた機関名が、略字で表示されているものと、完

全名で表示されたものとの調整。

初め、「をも見よ」参照を挿入することを考えたが、これは次の主催団体索引にも関連のあることなので、略字名、完全名両方から検索できる一覧表を作成して、巻頭に記載し、利用の便をはかった。

例 b-2

- ME013 AIAA Space Simulation Testing Conference, *Pasadena, Calif., 1964*.
Technical papers. New York, American Institute of Aeronautics
and Astronautics, 1964. 287 p. 29 cm. (AIAA publication CP-
11) (629.1388-A2884t)
- ME037 American Institute of Aeronautics and Astronautics Thermophysics
Specialist Conference, *1st, Monterey, Calif., 1965*.
Thermophysics and temperature control of spacecraft and entry
vehicles; a selection of technical papers. Edited by Gerhard B.
Heller. Sponsored by the AIAA Thermophysics Committee. New
York, Academic Press, 1966. 867 p. 25 cm. (Progress in
astronautics and aeronautics, v. 18) (629.1388-A5124t)

c 主催団体索引

団体名はすべて、略字ではなく完全名を採用した。略字しかわからない場合のために、巻頭に、略字名→完全名の一覧を掲載した。

(c-1) 同一団体名が索引に収録される件数が、団体によっては20件以上にもおよぶことがある。この場合多くの類書では、一つの団体名のもとに、直接本文の頁数等のコントロール記号を付するのが普通であるが、これでは利用上不便なので、識別する為に、会議名、叢書名、書名のうち、一つを付記した。三つのうちどれを採用するかは、上記の順で、会議名の不明確なものは叢書名、叢書名のないものは書名とした。

例 c-1

- American Society for Testing and Materials.
Advances in mass spectrometry. F0001
Annual Meeting, 57th, Chicago, 1954. K0008
International Rubber Conference, Washington, D. C., 1959. Rb033
Special technical publication, no. 96.* L0003

(c-2) 主催団体として、(特に国際会議などは) 10~20 機関もの団体が名をつらねている場合がある。このような時、いくつまで採用するか。これについては、目録カードに記載されているものは、全部。目録カードに記載されていない時は、原資料の最初に記載されているもののみを採用した。

例 c-2

本文

J0181 Symposium on the Immediate and Low Level Effects of Ionizing Radiation, Venice, 1959.

Immediate and low effects of ionizing radiations; proceedings of the symposium held at Venice on June 22d-26th, 1959, under the joint sponsorship of U.N.E.S.C.O., I.A.E.A. and C.N.R.N. and published as a supplement to the International Journal of Radiation Biology. Edited by A. A. Buzzati-Traverso. London, Taylor & Francis, 1960. 381 p. illus. 26 cm. (474.19-S9891)

索引

International Atomic Energy Agency.

Symposium on the Immediate and Low Level Effects of Ionizing Radiation, Venice, 1959. J0181

Italy. Comitato nazionale per le ricerche nucleari.

Symposium on the Immediate and Low Level Effects of Ionizing Radiation, Venice, 1959. J0181

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization.

Symposium on the Immediate and Low Level Effects of Ionizing Radiation, Venice, 1959. J0181

(c-3) 原語名と英語名

団体の名称は、できるだけ原語を採用し、英語名からは参照カードを入れた。ただし、国際機関で数カ国語の名称をもつものは、英語名で統一した。なお、ロシア語の場合、翻字したもの(本文の標目となったもの)と、原語のまま採用(本文の標目以外のもの)したものがある。日本語の場合には、全部ローマナイズし、その後には日本字を付記した。

例 c-3

Academy of Medical Science USSR.

See Akademiia meditsinskikh nauk SSSR.

Akademiia meditsinskikh nauk SSSR.

Академия меициисддих нкуа СССР.

Belgian Physical Society.

See Société belge de physique.

Comité international de photobiologie.

See International Photobiological Committee.

Czechoslovak Academy of Science.

See Československá akademie věd.

Japan Atomic Industrial Forum.

See Nihon Gensiryoku Sangyo Kaigi.

Nihon Gensiryoku Sangyo Kaigi. [日本原子力産業会議]

d 書名索引

書名索引には、書名、叢書名、レポート番号等を収録した。考慮を要した点は次のとおりである。

(d-1) 書名

書名が“proceedings”, “transactions” などのみもの、或は“proceedings of the annual conference” など、検索の手掛りとはなりにくいものは除いた。また“proceedings on (of) ...” “Symposium on (of) ...” などで始まる書名は、数多くあるので初めの語句は除き、その次の語以下を採用した。

例 d-1

本文

F0173 Symposium on Cavitation in Fluid Machinery, *Chicago, 1965.*

Symposium on Cavitation in Fluid Machinery. Edited by Glenn M. Wood and others. New York, American Society of Mechanical Engineers, 1965. 276 p. 26 cm. (532.5-S989s)

索引

Cavitation in fluid machinery.

F0173

本文

F0020 Brooklyn. Polytechnic Institute. *Microwave Research Institute.*

Proceedings of the symposium on modern optics, New York, N. Y., March 22-24, 1967. Edited by Jerome Fox. Brooklyn, Polytechnic Press, 1967. 804 p. 23 cm. (Its Symposia series, v. 17)

(MC91-3)

索引

Modern optics.

F 0020

(d-2) 叢書名およびレポート番号

できるだけ、原資料のままの表現を採用した。

例 d-2 ASTM special technical publication,

no. 77

L a 036

78

L 0 011

79

M c 022

•	•
•	•
NASA EP-	
5	Me 117
12	F0209
20	C0048
SP-	
4	Me 172
8	Me 120
11	Me 118
•	•
•	•
•	•
NBS Circular.	
519	F0211
520	R a 133
521	F0214
•	•
•	•
•	•

(田中・三上)

IV 今後にそなえて

1. 本目録の追加分の維持について

(1) 現在の作業

本目録は、前に述べたとおり、昭和44年(1969年)までに整理された会議録の目録で、それ以降整理された資料についても、本目録作成作業と同様の作業を継続して行なっている(会議録カードの引抜き作業—索引カードの作成—分類順排列)。この作業の中で、本目録作成作業と多少異なる点は、索引カード作成の際、主催団体索引については、本目録では主催団体が複数の時は整理部作成の目録カードに記載されたものは、全部。現物からとったものは一つ、としたが追加分(現在収集している分)については、現物からとる場合も、全部索引を作っている。また書名索引も本目録では通称名(例 NAECON '71: National Aerospace Electronics Conference, 1971)を、必ずしも入れていなかったが、追加分については、出来るだけ入れるようにしている。

追加分に当たるものの収録件数は、昭和47年2月末現在1,157件である。その

内わけは、下図のとおりである。

<表4> 追加分内わけ

NDL分類記号	収録件数	NDL分類記号	収録件数
M (科学技術一般)	135	PD (金属工学・鉱山工学)	54
MA (数 学)	60	PE (印写工学)	5
MB (宇宙科学)	31	PS (その他の工学)	3
MC (物 理 学)	112	RA (生 物 学)	102
ME (地球科学)	86	RB (農林・水産学)	37
NA (建設工学)	69	SA (人 類 学)	2
NB (機械工学)	16	SB (心 理 学)	7
NC (運輸工学)	44	SC (医 学)	102
ND (電気工学)	86	SD (薬 学)	9
NG (原子力工学)	23	M-S 以外 (科学技術以外)	20
PA (化学, 化学工学)	85	旧分類 (継 続)	58
PB (繊維工学)	2		
PC (食品工学)	9	合 計	1,157

また、追加分の中には、書店を通して、継続的に購入するようなシステムになっているものが、約200件ある。それらの例を挙げると、

(i) 機関指定のもの。

American Chemical Society, American Institute of Aeronautics and Astronautics.
American Society for Testing and Materials. 等の会議録。

(ii) 数種の団体が共催するもの。

Joint Computer Conference.

(Association for Computing Machinery, American Institute of Electrical Engineers, Institute of Radio Engineers. の共催*)

*後にこの三つの団体が一つの組織: American Federation of Information Processing Societies として、会議を主催するようになった。

(iii) 国際機関が主催するもの。

International Space Science Symposium.

(Intenational Com'cil of Scientific Union, Committee of Space Research の主

催による)

(iv) 国際会議。

World Petroleum Congress.

(Permanent Council of the World Petroleum Congress の主催による)

となる。この中で、(iv)の国際会議の会議録については、出来るだけ継続的に収集するようにつとめているが、International Congress of Mathematicians のような会議は、四年に一度開催され、主催団体もいくつかで構成され、数カ国の言語で、会議録が出版されるので、継続購入のシステムにはのせることができない。したがって、こうした国際会議の会議録の継続収集には会議録刊行の情報をキャッチした上で、個々に発注すると云う手続きをとることになる。今までは、これらの収集に、相当の困難な点があったが、本目録の作成によって、今後の収集には、相当の便宜が得られるであろう。すなわち、継続購入のシステムにのっていないが、欠号になっているものが明確になったこと、また、継続購入のシステムにのらないものの、情報キャッチの手掛りが得られることなどである。今後はこれら欠号の補充につとめたい。また現在作業を続けている追加分についても、本目録の補遺版として、刊行することも考慮している。

(菅原)

2. 和書の会議録

国内の科学技術研究会議は、学協会が主催するものが多く、年会、研究発表会、シンポジウム、学術講演会などの名前で開催されている。

例えば、日本化学会、日本物理学会、応用物理学会、日本機械学会、日本医学会、その他では年会、講演会、討論会などを行ない、それぞれの主催団体から講演予稿集が図書形態で、刊行されている。

また、学術会議、応用物理学会などが主催する『応用力学に関する会議録、Proceedings of the Japan National Congress for Applied Mechanics』のように、雑誌形態で刊行されているものもある。

当館は、国内出版物の納本図書館になっているため、自動的に入手できることになっているが、現実には未入のものがある。

当館の整理状況は、分類記号が付けられ、公開目録が作成されるものと、簡易整理資料(NDL分類表のY分類)がある。

また、これらの予稿集は、日本化学総覧、科学技術文献速報、船舶工学・海洋工学技術文献集などの二次資料に、抄録、索引されているので、欧文会議録とらんで、今後利用が増すであろう。

(例) 分類記号が付されているもの

日本医学会総会学術講演集14~17回 (490.4-N684n)
電子通信学会全国大会論文集 昭和44~46年 (ND511-20)
簡易整理資料となっているもの
応用物理学会学術講演会講演予講集
日本物理学会年令予稿集
日本放射線技術学会総会抄録集

など。

(山口)

V 書 誌

1. 会議の目録

雑誌形態で刊行されているもの。

Forthcoming International Scientific and Technical Conference. Dept. of Education and Science (Eng)

Scientific Meetings, Special Libraries Association. Lib. has 1965— (Z53-P183)

科学技術全般、医学分野に関係する将来の national, international な会議を主催する団体のアルファベット順リスト。

World Meetings; Outside United States and Canada. 1(1)1968— (Z53-R41)

World Meetings; United States and Canada. Lib. has 1967— (Z53-N341)

将来2年間に行なわれる予定の、医学・科学技術分野の国際会議のカレンダー。会議に関する一般情報、会議の出版物に関する情報など、他のカレンダーでは得られない詳細な情報を収録する。

部門別のもので次のものがある。

CIOMS Calendar. 国際医学団体協議会

Conferences, Meetings, Training Courses in Atomic Energy. International Atomic Energy Agency. Lib. has 1961— (Z53-P164)

核エネルギーの基本的技術問題と平和利用に関する会議の主題別索引。

IEEE Master Meeting Schedule. The Institute of Electrical and Electronics Engineers Inc.

World Calendar of Forthcoming Meetings; Metallurgical and Related Fields.

Iron and Steel Institute, London. Lib. has 1965— (Z53-N27)

将来2年間に行なわれる予定の主題別カレンダー。

図書形態で刊行されているもの。

International Congress Calendar. Union of International Association.

できるだけ、長期にわたって収録した日付順のリストで、会議後 Conference proceedings が刊行されるか、その予定日などについても情報が得られる。

日本で刊行されているもの。

国際学術会議 日本学術会議

International Congress Calendar, Forthcoming International Scientific and Technical Conference, CIOMS Calendar, World Meetings, World Convention Dates, JFES ニュースに掲載されたものの中から、将来1年間に開催される予定の国際会議を選んでいる。

JFES ニュース 共栄通信社

日本の学協会が、主催する年次会議から、国際会議までを収録している。日本国内の会議に関するカレンダーとして重要。

2. 会議録の目録

雑誌形態で刊行されているもの。

Current Index to Conference Papers in Science and Technology.

CCM Inc., New York, N. Y.

航空、生物科学、化学などの主題分野を含んでいる。

Index of Conference Proceedings Received by the NLL. National Lending Library.

雑誌形態で刊行されたもの、図書形態で刊行されたもの全部を含んでいる。

(GRAに掲載されている)。

InterDok; Directory of Published Proceedings. InterDok Corp.

SEMT; Science, Engineering, Medicine, Technology. 1(1)1965—

(Z53-P289)

SSH; Social Sciences, Humanities.

会議開催に関する情報の外に、会議録の書誌的事項も記載している。

Proceedings in Print. Proceedings in Print., Inc. Lib. has 1969—

(Z53-B271)

あらゆる主題について刊行された会議録を収録している。会議に関する情報の外に、会議録の書名、編者、出版社、値段など書誌的事項も掲載する。

レポート形態で刊行されるものの調査ツール

Government Reports Announcements. (formerly U. S. Government Research and Development Reports) National Technical Information Service. (Z55-A94)

International Aerospace Abstracts. American Institute of Aeronautics and Astronautics. (Z53-A131)

Nuclear Science Abstracts. U. S. Atomic Energy Commission. (Z53-B71)

Scientific and Technical Aerospace Reports. National Aeronautics and

Space Administration. (Z53-B139)

以上4件については Conference, Symposia などの主題で検索する。

図書形態で刊行されているもの。

Year book of International Congress Calendar. 1961— (annual) Union of International Associations.

開催年月順配列。主催団体索引、著者索引、主題索引が完備。現在2巻まで刊行されている。

International Congresses and Conferences, 1840-1937. 1967. New York Kraus Reprint Corp.

アメリカおよびカナダのユニオンリスト。所蔵する図書館が記入されている。会議名のアルファベット順配列。

その他年次会議のように連続して開催される会議、あるいは講習会その他を調べる資料として

World List of Scientific Periodicals 4th, 1965 がある。

また国内のものとしては

全国学協会総覧 日本学術会議、科学技術団体要覧 日本科学技術振興財団
などが参考になる。(山口・小山)

(たなか・たかこ：科学技術課 主査 ふるや・ゆういち：同 主査
やまぐち・ぎいち：同 副主査 こやま・かつ：同 副主査
すがわら・つたこ：同 みかみ・たみこ：同)

なお、本目録の入手先は学術文献普及会（東京都目黒区大岡山，東京工業大学内）
価1部5,800円です。

国立国会図書館所蔵

貴重書解題 第4巻——古文書の部 第一

A5 写真20頁 はしがき・解説・凡例・目次16頁，解説本文98頁，編年索引18頁

第1巻 室町時代以前刊本の部，第2巻 古活字版の部，第3巻 古写経および仏教関係古写本の部に続く，青山文庫旧蔵中世文書の解説目録。

第5巻 名家短冊の部，第6巻 古文書の部2を予定している。本解題は、主として、大学・公共図書館にのみ寄贈。